

第九十回 帝國議會衆議院 生活保護法案委員會議錄(速記)第七回

付託議案

昭和二十一年八月三日(土曜日)午
前十時二十一分開議

王陽明

委員長代理 理事會
理事 小柳富太郎君 理事原 捨思君

小池
改

竹内
茂

山口好

有馬 塙川
英 仁

澤田
七

松尾 卜

松谷天井

同日吉川筆

補闕トシテ

選シタ

出席國會

四

出席政府

大學生

厚生

厚生

本日ノ會議ニ付シタ議案
生活保護法案(政府提出)

○齊藤委員長代理 本日ハ委員長代理ガ已ムヲ得ナイ御用デ缺席致サレ
マシタノデ、代ツテ私が委員長ノ思ヒマス、大藏大臣ハ直グオイデ
代理ヲ務メサシテ戴キマス、ソレ
デハ是ヨリ會議ヲ開キマス、川野
君

シタノデアリマスルガ、私ハ此ノ
際明治維新ノ石井十次先生ヲ思ヒ
出シテ見タイト思フノデアリマ
ス、石井十次先生ハ明治二十年、
二十三歳ノ時ニ前原眞一ナル一孤
兒ヲ助ケタノヲキツカケト致シマ
シテ、孤兒院事業ニ乗出シタ方デ
アリマス、併シ此ノ孤兒院事業ヲ
完全ニヤルニハ、ドウシテモ都會
デハイケナイト云フノデ、明治二
十七年ニ八日向ノ茶臼原ニ孤兒院
ヲ造ラレマシテ、此ノ茶臼原ヲ中
心ト致シマシテ孤兒院事業ヲ營マ
レタコトハ皆様御承知ノ通リデア
リマス、而シテ石井十次先生ハ或
ハ精米事業、或ハ理髮事業、或ハ
鍼ヲ入レマシテ農産事業等ヲ傍ラ
ニ經營サレマシテ、サウシテ小サ
イ子ハ小サイ子供ナガラ、或ハ少
年ハ少年ナガラノ此ノ手傳ヒヲサ
セマシテ、事業意欲ヲ興振サセマ
シテ、孤兒ノ養育ニ努メラレタノ
デアリマス、其ノ結果非常ニ成績
ガ舉ツタト云フコトヲ私ナドハ承
ツテ居ルノデアリマスルガ、此ノ
際政府ニ於カセラレマシテハ、僻
遠ノ地或ハ又島ニ國立ノ孤兒院ヲ
御造リニナツテ、是等ノ可哀相ナ
ル孤兒ニ對シマシテ、片方ニハ事
業意欲或ハ勤勞意欲ヲ起サセルヤ
ウナ、孤兒教育ヲ施サレル所ノ御

考へハナイカト云フコトヲ承ツテ
見タイノデアリマス、現在都會ノ
孤兒院等ニ於キマシテハ、相次イ
テ逃亡者ガアルト云フコトヲ承ツ
テ居リマスノデ、少クトモ私ハ島
カ或ハ相當距離ノアル僻遠ノ地ニ
孤兒院ヲ開設スペキデアルト云フ
考ヘヲ持ツテ居ルノデアリマス、
此ノ點ニ付テ御尋ネ申上ゲタイノ
デアリマス

リマシテ感謝致ス次第デアリマス、併シ今日ハ實行ト云フ點ニ付キマシテハ一日ヲ爭フ問題デゴザイマスノデ、速カニ御調査戴キマシテ御實施賜ハランコドヲ切望致ス次第デアリマス

次ニ御尋不申上ゲタイコトハ、刑ヲ終リマシテ釋放サレタ所ノ釋放者ノ問題デアリマス、其ノ數字ヲ調べマスト、昭和十八年度ニハ滿期者ガ二萬二百三十二人、假釋放者ガ四千六百二十三人デ、計二千三百六十六人、計二萬六千八百四千八百五十五人トナツテ居リマス、十九年度ニハ滿期者ガ一萬八千五百二十五人、假釋放者ガ八千一百六十一人ト云フ、狀態ニナツテ居リマス、昨年度ノ統計ハマダ出來テ居リマセヌガ、非常ニ多數デアルト云フコトデアリマス、此ノ多數ノ釋放者ハ現在デハ二百三十幾ラノ司法保護團體ニ依ツチ、或ハ收容保護サレ、或ハ一時保護サレ、或ハ監察保護サレテ居ル所ノ現狀デアリマス、併シ其ノ保護團體ノ内容ニ立入ツテ見マスト、政府ノ助成金ハ薄ク、保護施設ヲ作ルト致シマシテモ、寄附金ヲ以テセネバ其ノ施設ガ出來ナイト云フ現狀デアリマス、故ニ斯カル人ヲ保護致シマス司法保護ノ施設ニ對シマシテモ、本法案ヲ適用致シマ

シテ、其ノ半額ヲ國庫補助ニ致シ
テ貰ツタナラバ、非常ニ便利ダト
考ヘマス、此ノ點ニ付テ御當局ノ
御所信ヲ承ツテ見タイト思ヒマス

ノ關係ノ生活保護法案ノ方ノ費用ヲ此ノ方ニ出サナイカト云フヤウナ點ダケニ付テ御答ヘヲ申上ゲルコトニ致シタイト思ヒマス

ナ現今ノ風潮ガゴザイマスノデ、
釋放者ト雖モ刑ヲ終ヘタ者ハ、其
ノ罪ヲ憎ンデ人ヲ憎マズト云封建
前カラ致シマシテモ、當然同一種

ガ、生活ニ困ルト云フヤウナ状態ニ立至リマシタ場合ニ於キマシテハ、勿論最後ノ一線ニ於テ本法ニ保護ヲナスコトハ差支ヘハナイ謂

ヲ頼ミマシテ、結婚奨励ヲサセル
御意思ハナイカト云フ點ヲ御伺ヒ
シタインデアリマス、尙ホ貧シキ
人ガ結婚ヲ致スト云フコトニ付キ

尙ホ此ノ釋放者ノ中デ或ル程度
ノ人ハ直チニ職ニ就クコトガ出來

生活保護法案ハ色々ナ他ノ國家ノ制度ニ依ツテ何トモ手ノ及ビヤ

ノ保護ヲ與ヘルベキモノデアルト
考ヘルノデアリマス、併シ現在ニ

デゴザイマス

マシテモ、實ハ費用ガナイト云フ
實情デゴザイマス、物價暴騰ノ今

ルメデアリマスルガ、大多數ノ人ハ職ニ就クコトガ難カシイ實情デアリマス、戰時中デアリミシタナラバ直チニ職ニ就クコトガ出來タノデアリマスガ、現今ノ如キ失業者ガ群ヲナシテ居ル時代ニ於キマ

ウノナイ者ヲ、最後ノ一線デ保護シテ參ルト云フ建前ニ依ツテ立案ヲサレテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ釋放ノ關係ノ方ハ、御承知ノヤニ司法省關係ノ方ノ法律ニ基イテヤツテ居ルノデアリマシ

於キマシテハ、只今申シマシタヤ
ウニ一般ノ人ト一绪ニ救護ヲ受ケ
ルノハ氣拙イ思ヒヲスル、又一般
モ其ノ人達ト一绪ニ居ルコトハド
ウモ好マナイ、而シテ保護團體ガ
收容シテ之ヲ養フト云フコトニナ

ガ、結婚ノ問題デアリマス、戦時
中ハ産メヨ殖ヤセヨノ建前カラ、
方面委員ガ結婚相談委員ニナリマ
シテ、結婚ノ斡旋ヲシタコトハ御
承知ノ通リデアリマスガ、終戦後
ノ今日デハ、産メヨ殖ヤセノ建前
カラ皆音アモ動ケレ、云フコト、

日ニ於キマシテハ、簡素ナル結婚ノ式典ヲ舉ゲルニ致シマシテモ、相當ナル費用ガ要リマスノデ、サウ云フ貧シイ方ニハ結婚費用ノ補助ヲスルト云フコトガ必要デハナカラウカト考へマスノデ、此ノ第十一條ノ第五項ノ旨務失効ノ下ニ

シテ、釋放者ハ遺憾ナガラ雇ひ手
ガナイト云フ實情デアリマス、是
等ノ方々ヲ一般人ト同様ニ保護致
スト云フコトハ當然デアリマスル
ガ、併シ收容所ニ於キマシテハ、
是等ノ人ト一緒ニ保護ヲ受ケルコ

テ、其ノ目的ハ一般ノ保護ト云フ
ヨリモ、寧ロ釋放者ノ再犯防止ト
申シマスカ、刑事政策ノ方面カラ
立案サレテ居ルモノデゴザイマシ
テ、ソチラノ方ノ分野デヤツテ戴
クト云フコトニナツテ居ルノデア

リマスト令にてノ非常ニ絶対力
ナイ、同一政府ノ下ニ保護法案ニ
依ツテ救護サレタ者ハ優遇サレテ
居ルガ、司法保護團體ニ依ツテ養
ハレテ居ル者ハ虐待ヲ受ケテ居ル
ト云フ現下ノ不公平ナ實情デゴザ
ミスノズ、司法主活保護法ニ依

夫婦結婚式の準備等の手配等、食糧事情等の関係モゴザイマシテ、如何カトモ考ヘルノデアリマス、併シ現在ノ青年等ノ荒ミ切ツタル心ヲ和カニスルノニ、ドウシテモ婦人ノ愛ガ必要デアル、斯ウ考ヘレノデアリマス、ノンデ吉田

十一個ノ第五项ノ祭祭扶助ト云フ
「結婚扶助」ト云フ四ツノ文字ヲ
入レマシテ、サウシテ斯ウ云フ貧
シイ方ニ結婚費用ノ一部ノ補助ヲアリマス
ナサレル御意思ハナイカト云フ點
ヲ御伺ヒシタインデアリマス

トテ好マナイノガ現下ノ實情アラ
リマス、ソレデ斯ウ云フ人達ハ現
在ノ司法保護團體ニ依ツテ保護ヲ
受ケテ居ルノデアマスルガ、其
ノ費用ガナイト云フ實情デゴザイ
マスノデ、其ノ費用ノ點ニ付テハ
ヒノ生舌采蘋花茶ノ規定ニ則ツ

リマス、隨ヒマシテ此ノ部分ノ費用ノ足ラズマヒテ此方ノ費用デ出スト云フズウナコトハ一寸難カシイノデハナイカト云フヤウニ考ヘテ居ル次第アリマス〇川野委員 私ノ質問ノ趣旨ヲ御取扱ヘニシテ居レウトモ考ヘレ

人ニ限ツテハ、此ノ生活保護法ニ
依ツテ委託ノ方面ノ關係デ司法保
護團體ニ預ケテ、費用ヲ出シテ戴
ケヌダラウカト云フ質問デゴザイ

ノ奨勵ト云フコトハ、形ヲ變へテ
又必要ナ問題デハナカラウカ、斯
ウ考ヘマスノデ、此ノ民生委員ニ
結婚相談委員ト申シマセウカ、サ
ウ云フコトヲ託致シマシテ、結
婚ノ御世話ヲ申申ダラレタラ如何

ニ扱ハスコトハドウカト云フ風ナ御質問ダツタト思ヒマスガ、戦争後未亡人ノ色々ナ複雑ナ事情、或ハ又青年ノ好イ配偶者ヲ得ラレナイト云フヤウナ人達ノ結婚ノ問題ハ、極メテ難カシイ問題デアリマ

○臺西政府委員 釋放者ノ保護ノ
關係ハ御水知ノヤウニ司法省ノ所
管デゴザイマスノデ、私カラ責任
ヲ以テ御答ヘラ申上ゲルコトハ出
來ナイノデゴザイマスガ、私ノ方

取送へニナリテ居ルガトキテノノデアリマスガ、私ノ申シマスノハ、實ハ釋放者ノ中ニ生活ニ困ツタ人、是ハ當然民生委員ノ手ニ依ツテ、此ノ生活保護法ニ依ツテ養ツテ戴カナケレバナラヌ人、斯ウ云フ人ヲ一般人ヲ收容ズル所ノ保護施設ノ中ニ一緒ニ入レマスト、釋放者ノ方モハニカム思ヒヲ致シマス、又一般ノ人モ罪ヲシタ犯人ト一緒デハドウモ困ルト云フヤウ

○葛西政府委員 私若干御尋ネラ
感違ヒシテ居ツタヤウナ點モザ
イマスノデ、改メテ申上ゲタイト
思ヒマス、司法保護ノ收容施設等
ニ於テドウシテモヤツテ行ケナイ
ヤウナ場合ニ、本法ニ依ツテ保護
ガ出來ルカト云フヤウナ御尋ネト
了解シテ御答ヘ申上ガマスガ、司
法保護ノ方ノ金デ、ドウシテモ本
人或ハ其ノ家族ト云フヤウナ者

カ、斯ウ考ヘルノデアリマス、又未亡人ノ問題デゴザイマス、多數ノ御同情スペキ未亡人ガオアリデアリマスガ、其ノ未亡人ニモ、既ニ終戦後ノ今朝デハ、結婚ヲオ獎メ申上ゲテ、サウシテ適當ナル家庭ヲ持タセルト云フコトハ、是ハ必要ナコトデハナカラウカト考ヘマスノデ、斯ウ云フ點カラ申シマシテモ、民生委員ニ結婚相談委員

スノデ、斯様ナ點ニ付キマシテハ、將來民生委員ガ御世話ヲ申ニ立ツテシテ戴クト云フ風ナコトハ必要ナコトデハナイカト考ヘテ居リマス、ソレデ今度改正ヲ致シマスノデスル民生委員令ニ於キマシテモ、斯様ナ趣旨ノ規定ヲ一條民生委員ノ職務ノ中ニ或ル程度入レル積リデゴザイマス、ト申シマスノハ、必要ニ應ジテ生活ノ指導ガ出來ル

ト云フヤウナ規定ヲ一應入レテ見
ヨウカト云フヤウナ腹案デ居ル譯
デゴザイマス、サウ云フコトニナ
リマスレバ、今御述ベニナリマシ
タヤウナコトモ、地方ノ實情等ニ
依リマシテハ民生委員ニオ勵キヲ
願フト云フヤウナコトガ自然起ツ
テ參ルノヂヤナイカト云フ風ニ考
ヘテ居ル次第デゴザイマス、從來
ニ於キマシテモ、方面委員ガ今御
述ベニナリマシタヤウナ、產メヨ
殖セヨト云ツタヤウナ結婚獎勵ノ
時期ニ於キマシテ、地方等デ結婚
ノ御相談ニ應ジマシテ、相當ノ成
績ヲ舉ゲテ居ル實例モ存ジテ居ル
ヤウナ次第デゴザイマス、尙ホ法
案ノ第十一條デ、結婚ニ關スル費
用ガ足リナイ爲ニ因ル場合ガアツ
タラバ、結婚扶助ト申シマスカ、
サウ云フコトヲ行ツタラドウカト
云フ御意見デアツタヤウニ承ツタ
ノデアリマス、葬祭ノ關係ハ、現
在カラ申シマスト可ナリ費用モ要
ラウカト思フノデアリマスガ、結
婚ト云フコトニナリマスルト、是
ハ簡素ニヤレバ相當簡素ニヤレル
譯デアリマスカラ、茲ニ生活保護
ノ一つノ項目、保護ノ種類トシマ
シテ結婚扶助ト云フモノヲ舉ゲル
必要ハナインヂヤナイカト云フヤ
ウナ考ヘカラ、結婚ノ扶助ノ費用
トシテ出ス必要ハナカラウト云フ
ノデ、法律ニモ之ヲ掲ゲナカツタ
ヤウナ次第デゴザイマス

市町村長ガ媒酌人ニナリマシテ小
サヤカナル結婚式ヲ舉ゲテ來タノ
デアリマス、其ノ小サヤカナル結
婚式ノ費用デモ、過去ニ於テ百圓
位ノ費用ハ要ツテ居ツタノデアリ
マス、物價騰貴ノ今日ニ於キマシ
テハ、少クトモ如何ニ簡素ナ結婚
ヲ行ヒマシテモ、四五百圓ノ費用
ハ要ルノデハナカラウカト私ハ考
ヘルノデアリマス、此ノ四、五百
圓ノ金ヲ貧シキ方ニ出セト申シマ
シテモ、是ハ到底出來ナイ相談デ
ゴザイマスノデ、此ノ點ダケハ是非
一ツ總テ冠婚葬祭ト申シマシ
テ、葬式ノ半面ニハ結婚ノ式ガアル
ルノハ我ガ國ノ從來ノ習ヒデアリ
マス、ソレデ是非トモ一ツ貧シイ
方ノ結婚ノ費用ニハ相當ノ補助ヲ
シテ戴キタイ斯ウ云フコトヲ考ヘ
テ居ルノデアリマスガ、此ノ點ニ
付テモウ一度承ツテ見タイト思フ
ノデアリマス

クトモ二百萬ニ垂ントスル所ノ多
數ノ人デアリマス、斯ウ云方々
ハ、祖先傳來ノ自分ノ職業ヲ國家
ノ要請ニ從ツテ棄テ、サウシテ
炭坑ニ參リ地下數千尺ノ坑ノ中デ
石炭增產ニ勵シミ、或ハ又軍需工
場デ軍需生産ニ勵シシングダモノデア
リマス、併シ是等ノ方々ハ、或ハ
地下數千尺ノ坑ノ中デモ、或ハ工
場ノ中デモ、又イツカハ元ノ職業
ニ歸ラレル時ガ來ルデアラウト云
フコトヲ樂シミニ致シマシテ、孜
孜營々トシテ國策ニ順應致シテ來
タ方々デアリマスガ、悲シイ哉、
現今ニ於キマシテハ二百萬ニ垂ン
トスル所ノ、斯ノ如ク國家ノ命令
ニ從ヒ、サウシテ祖先傳來ノ職業
ヲ失ツタ所ノ同情スペキ方々ニ對
スル同情ノ聲ガナイ、此ノ方々ハ
少クトモ戰災者或ハ引揚者ト同様
ニ哀レナ狀態ニ置カレテ居る人々
デアルト私ハ信ズルノデアリマス
ガ、斯ウ云フ方々ニ對シテ如何ナ
ル救助ノ政策ガ執ラレルカ、又企
業整備ニ當ツテハ、涙金或ハ暖簾
代ト稱セラレマシテ、幾許カノ金
ガ交付サレタノデアリマスガ、是
等ノ金モ、生活資金ノ一千圓ヲ除
イタ外ノ金ハ、全部特殊預金トシ
承ル所ニ依リマスルト、是等ノ特
殊預金モ、一般補償ノ中ニ含マレ
ツ、アル所ノ實情デゴザイマス、
テ打切ラレルカノ如キ風説ヲ聞ク

ノデアリマスガ、此ノ點ニ對スル
御當局ノ御對策ヲ承リタイト思ヒ
マス

○服部政府委員 結婚ノ費用ヲ何
トカ生活保護法ニ規定セヌカト云
フ重ネテノ御尋ネデアリマス、此
ノ生活保護法ハ、オ互ヒノ生活ノ
最低ヲ保障スル所ノ法案デアリマ
シテ、結婚ノ費用等ニ參リマス
ト、其ノ生活ノ保護ヲ受ケル立場
ノ人ハ、自然其ノ人ノ生活ノ内面
ニ於テ此ノ保護ヲ受ケルコトニナ
リマスノデ、結婚式其ノモノノ費
用ニ對シテハ、特ニ生活保護法ニ
屬スル費用ノ一部ヲ持ツテ參リマ
シテ之ニ充テルト云フコトハ、只
今ノ所デハドウモ御意ニ副ト兼不
ル次第デアリマス、唯結婚式ト云
フモノヲ、市或ハ町村其ノ他ノ社
會事業的ナ團體が行フ場合ニ於キ
マシテハ、斯ウ云フ費用カラモ一
部事務的ノ費用ヲ補助シ得ラレル
ヤウナコトガ出來ルノデヤナイカ
ト思ヒマス、殊ニ社會施設ノ團體
ガスウ云フ面ニ於テ世話ヲセラレ
ル場合ニハ、當然其ノ團體ニ對シ
テ、事務的ナ補助ノ内容ノ中ニ織
込マレテ、是ガ與ヘラレルヤウニ
ナツテ行クノデヤナイカ、斯様ニ
考へテ居リマスカラ御諒承ヲ願ヒ
タイト思ヒマス

尙本企業整備ニ伴ヒマスル對策
デゴザイマスルガ、既ニ戰爭モ終
リマシタ今日ニ於キマシテ、戰爭
遂行ニ因リマス爲ノ企業整備ニ因

ノ犠牲者ニ對シマシテハ、御趣旨
ノ點洵ニ御同感ニ堪へナイノデア
リマス、併シ其ノ具體的ナ策ニ至
リマンデハ、是ハ商工省、大藏省
ノ所管ニナリマスノデ、其ノ方ノ
面カラ御答辯ヲシテ戴クコトニ致
シマヌ

ハ、此ノ特殊預金ノ問題ニ付キマ
シテモ格段ノ措置ヲ關係方面ト打
合セタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第
デアリマス
○川野委員 企業整備者ガ國策ニ
順應致シマシテ、國家ノ命令ノ儘
ニ祖先傳來ノ家業ヲ抛ツテ、國ガ
命ズル方面ニ働イタコトハ、只今
私ガ申シタ通リデアリマシテ、斯
カル方々ノ唯一ノ命ノ綱ハ、此ノ
特殊預金デアルノデアリマス、只
今ノ御説明ニ依リマスト、一萬圓
マデハ特殊預金ノ支拂ガ出來ルヤ
ウナ便法モ出來タト云フ御説明デ
アリマシタガ、併シ元ノ職業ニ歸
ルノニ、一萬圓位ノ金デハ歸ラレ
ナイト云フコトハ、是ハ私ガ申上
ゲルマデモナイコトデアルノデア
リマス、是非此ノ企業整備者ニ限
ツテハ特別ノ便法ヲ講ゼラレマシ
テ、サウシテ少クトモ戰災者同様
ナル程度ノ御取扱ヲ願ヒタイト考
ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付キ
マシテハ、關係方面トノ折衝ニ一
段ノ御努力ヲ御願ヒスル次第デア
リマス

次ニ最後ニ御尋ね申上ゲマスコ
トハ、國民ヲシテ如何ニシテ正業
ニ就カシムルカト云フ問題デゴザ
イマス、今日我ガ國ノ狀態ヲ眺メ
テ見マスト、樂ナ商賣ヲ見付ケヨ
ウ、樂ヲシテ暮サウ、樂ヲシテ金
ヲ儲ケヨウト云フ、此ノ思想ニ國
民ノ大多數ハ襲ハレツ、アル狀態
デアルト私ハ思フノデアリマス、

聞市場ニ參ツテ見マシテモ、殆ド
闇商人ハ若イ方々デアリマス、勞
働ノ出來ル方々デアリマス、從來
ハオ婆サン、オ爺サンガヤツテ居
ラレルヤウナ仕事ヲ、總テ現在デ
ハ若イ者ガヤツテ居ルト云フ實情
デゴザイマス、又先般委員會ニ於
テ問題ニナリマンシタ闇ノ女ニシマ
シテモ、色々ナ事情モゴザイマセ
ウガ、半數ガ女學校卒業生以上デ
アル、サウシテ無職デアルト云フ
ヤウナ狀態カラ考ヘマスルト、是
ト亦樂ナ仕事ヲシテ金ヅ儲ケヨウ
ト云フ、腐ツタ思想ノ反映デハナ
カラウカト私ハ思フノデアリマス
又先般東京都ガ三十萬ノ失業者ヲ
豫想致シマシテ、八十萬戸ノ調査
ヲ行ヒマシタ所、就職希望者ハ僅
カ一萬四千人デアツタト云フコト
ト云フコトヲ、新聞紙上デ拜見致
シタノデアリマス、斯ウ云フ點カ
事務的ナ仕事ヲ御希望ニ相成ツタ
デアリマス、其ノ一萬四千人ノ半
分ハ知識層デゴザイマシテ、所謂
ヲ考ヘマシテモ、現在ノ國民ト云
フモノハ、樂ナ仕事ヲショウ、樂
シタノデアリマス、斯ウ云フ點カ
居ルト私ハ思フノデアリマス、兎
モ角モ生活保護法案ハ劃期的ナ法
案ト致シマシテ、私ナドハ満喫ノ
贊意ヲ持ツテ居ルモノデアリマス
ガ、唯濫救ノ點ガ惰眠者ヲ拵ヘハ
シナイカト云フコトニ、私ハ非常
ナ心配ヲ持ツテ居ルモノデアリマス
ス、然ルニ現在ノ我ガ國ノ狀態ハ

ドウデアリマスルカ、數百萬ノ陸海空ノ軍隊ハ既ニ解消サレ、幕末以來百餘年ニ構築シ來ツタ所ノ防備モ完全ニ撤去サレ、四大財閥初焼カレ、殘ル僅カノ工場ハ平和産業ノ工場トシテ殘サレツ、アリ、多クノ工場ハ支那或ハ海外ニ撤去サレント致シテ居リマス、又近クハ財產稅ノ徵收モアリ、サウ云フ點カラ考ヘマスルト、今後我國ハ如何ナル狀態ニ置カレルデアリ、マセウ、半町乃至一、二反ノ上地ヲ持ツテ居ル所ノ貧乏ナ農家ト、或ハ中小業者ト、勤勞者ガ殘ル我ガ國ニ相成ルカト考ヘマス、貧乏人同士ノ日本ニ相成ルカト私ハ考ヘマス、斯ウ云フ日本ニ勤勞精神ガナクテ、果シテ再建日本ガ出來ルカドウカト云フコトヲ考ヘマスト、私ハ憮然タラザルヲ得ナイノデアリマス、官廳方面ヲ見マシテモ斯カル時ニ半ドン制ノ實施ガアル、農民ハ朝早クカラ夜遲タマデモセウカ、私ハ今後ノ日本ト云フ唐デ倒イテ居ルノニ、官廳ガ半ドン制ヲ實施シテ居ルト云フヤウナ實情ハ、何タル悲シイコトデアリイ、勤勞意欲ヲ全國民ニ滲透サセルト云フコトガ、今日我ガ國ニ取ツテ最モ緊急ナ問題デハナカラウナモノハ勤勞ナクシテハ再建出来ナカト私ハ考ヘルノデアリマスガ故

ニ、宜シク政府ハ首頭ヲ取ラレマシテ、勤勞意欲向上ヲ目的トスル所ノ一大精神運動ヲ起サセル用意ハナイカト云フ點ヲ御伺ヒ致シタノデアリマス、尙ホ勤勞意欲向上的ノ爲メ、中堅青年ノ指導者ヲ養成スル爲ニ、國立ノ訓練所ヲ作ツテ指導者ヲ養成致シマシテ、全国民ニ勤勞意欲ノ精神ヲ植付ケラレル御意思ハナイカト云フ點ヲ御伺ヒ致シタノデアリマス。

○河合國務大臣　只今ノ川野サンノ御質問ニ御答ヘ致シマス、丁度私今途中デ入ツテ參リマシタノerde、十分御質問ノ御要旨ヲ拜聴出来ナカツタコトヲ遺憾ト致シマスケレドモ、大體ノ御質問ノ要旨ハ非只今關係ノ者カラ聴キマシタカラ、ソレニ基イテ御答ヘ致シマス、申スマデモナク日本民族ハ非常ニ効ク國民デアリマシテ、此ノ馬ノ背中ノヤウナ日本ノ國ニ、建國以來何千年斯ュヤツテ一生物僉ニヤツテ居リマス、例ヘバ農耕地ニシマシテモ、只今六百萬町歩ノ農耕地ノ中ノ百何十万町歩ト云フモノハ、明治維新ノ初メ以來ヤツト耕ヤサレタモノニアツテ、五百萬町歩ト云フモノハ元ノ古イ時代カラズツト耕ヤシテ居ル地面ニアリマス、其ノ位日本民族ハ昔カラノ特質ハ獨クテ條件ノ惡イ所デ一生懸命ヤツテ、此ノ大キナ人口ヲ抱擁シテ居ル民族デアリマス、其ノ特質ハ皆サンモ御承知ノ通リデアリ

ス、唯不幸ニシテ此ノ終戦ト申シ
マスカ敗戦ト申シマスカ、是ハモ
ウ日本歴史ニモナイ初メテノコト
デアリマシテ、殊ニ色々ナ産業上
ノ變革ガ起リ、又社會上ノ變革ガ
起リ、サウシテソコニ食糧不足ノ
ヤウナ非常ナ難問題ガ併發シマシ
タノデ、國民ハ或ル程度マデ途方
ニ迷ツタ、惡ク言ヒマスレバ虛脫
狀態ニナツタ云フ狀態ガ起キテ
居ルノデハナイカ、是ハ物ノ本體
デハアリマセヌ、暫定的ニ進ム一
ツノ經過時代ダト私共ハ見テ居リ
マス、是ハ追々變ツテ來マス、又
變ラナクチヤナラヌ、御承知ノ通
リ、日支事變前ニハ非常ナ低賃金
ヲ以テ世界ノ市場へ進出シタ、所
謂「ソシヤル・ダンビング」ノヤ
ウナ問題モ起シマシテ、世界ノ注
目ト或ル程度ノ批判ヲ集中シタヤ
ウナコトサヘアル、此ノ「ソシヤ
ル・ダンビング」ノ是非ハ問ヒマ
セヌ、問ヒマセヌガ、勞働者舉ツ
テ非常ニ勤勉ニヤツタ、日本國學
ゲテ勤勞ノ一生懸命ヤツテ居ツタ
ト云フコトハ顯著ナ事實デアリマ
ス、ドウシテモ日本民族本來ノ勤
勉性ニ戻サナクテハナラヌ、今御
話ノ勤勞意欲向上ノ精神運動、是
ハドウシテモ起サナクテハナラ
ヌ、斯ウ云フ線ニ沿ウテ大キナ國
策ヲ打樹テナケレバナラヌ點ハ固
ヨリノコトデアリマス、先程カラ
私外國ノ新聞記者ト今マデ對談ヲ
シテ參ツタノデスガ、其ノ時ニモ

私ハ申シタ、日本ニハ蛸配當ト云
フ言葉ガアル、蛸ト云フモノハ飢
エレバ自分ノ足ヲ喰フ、今日ノ日
本ノ產業ノ状態ニ於テ蛸配當ヲサ
シテハイカヌ、日本ハ言フマデモ
ナク今ハ物ガ足ラヌノダ、物ヲド
ウシテモ充足サセナクテハナラ
ヌ、日本ニアル少イ物ヲ蛸ガ手足
ヲ食フヤウニ食ツテハイカヌノ
ダ、ドウシテモ「ウエーリ・バン
ド」ト申シマスカ、勤労者ニ分ケ
ル、又國民全體ガ生活ヲスル本自
體ヲ殖サナケレバイカヌ、古久經
濟學說ニ「ウエーリ・バンド・セオ
リー」ト云フモノガアル、日本ノ
現狀ニ於テ、兎モ角モ國ニ物ヲ殖
サナケレバナラヌ、物ノ生産ヲ殖
サナケレバナラヌ、又國ノ物資ヲ
殖サナケレバナラヌ、是ガ正シク
我々ノ目標デアル、總テ國民ハ此
ノ點ニ向ツテヤツテ欲シイ、サウ
スレバ自然皆ニ分ケル分量ガ非常
ニ多クナル、勿論分配ノ問題ハ重
大デス、今マデノ勞働問題ナドノ
趨勢ヲ見マスルト、此ノ半箇年間
ノ勞働問題ハ多クハ物ノ分配ニア
ル、殊ニ物價ノ昂騰ニ賃金ガ伴ハ
ナカツタ、是ハ「インフレーショ
ン」ノ増進其ノ他食糧不足ト云フ
コトデ、已ムヲ得ヌコトデアリマ
スガ、ソレニ向ツテ賃金ノ平均ガ
合ツテ着テ居ルヤウナ狀態デアリ
マスカラ、是デ満足ダト云フコト
申シタ如ク、一枚ノ蒲團ヲ引張リ
ト云フノデハナイ、元々日本ニハ
物ガ足ラヌノデス、是ハ此ノ問モ
コトデ、已ムヲ得ヌコトデアリマ
スガ、ソレニ向ツテ賃金ノ平均ガ
問題ノ重點デアリマシタ、是ハ已
ムヲ得ヌ、併シナガラドウヤラ物

價モ安定シタヤウナ形デアリマ
ス、食糧問題モ段々落付イテ來ル
トナルト、勞働問題ノ性格モ自ラ
シテハイカヌ、日本ハ言フマデモ
ナク今ハ物ガ足ラヌノダ、物ヲド
ウシテモ充足サセナクテハナラ
ヌ、日本ニアル少イ物ヲ蛸ガ手足
ヲ食フヤウニ食ツテハイカヌノ
ダ、ドウシテモ「ウエーリ・バン
ド」ト申シマスカ、勤労者ニ分ケ
ル、又國民全體ガ生活ヲスル本自
體ヲ殖サナケレバイカヌ、古久經
濟學說ニ「ウエーリ・バンド・セオ
リー」ト云フモノガアル、日本ノ
現狀ニ於テ、兎モ角モ國ニ物ヲ殖
サナケレバナラヌ、物ノ生産ヲ殖
サナケレバナラヌ、又國ノ物資ヲ
殖サナケレバナラヌ、是ガ正シク
我々ノ目標デアル、總テ國民ハ此
ノ點ニ向ツテヤツテ欲シイ、サウ
スレバ自然皆ニ分ケル分量ガ非常
ニ多クナル、勿論分配ノ問題ハ重
大デス、今マデノ勞働問題ナドノ
趨勢ヲ見マスルト、此ノ半箇年間
ノ勞働問題ハ多クハ物ノ分配ニア
ル、殊ニ物價ノ昂騰ニ賃金ガ伴ハ
ナカツタ、是ハ「インフレーショ
ン」ノ増進其ノ他食糧不足ト云フ
コトデ、已ムヲ得ヌコトデアリマ
スガ、ソレニ向ツテ賃金ノ平均ガ
問題ノ重點デアリマシタ、是ハ已
ムヲ得ヌ、併シナガラドウヤラ物

枚ノ蒲團ヲ引張リ合ツテ着テ居ル
ト云フヤウナコトカラ、ドウシテ
ガ中心ニナル、勞働調整法其ノ他
ニ對スル勞働者ノ議論モアリマス
ケレドモ、是ハ實質的ニハ私ハナ
ド」ト申シマスカ、勤労者ニ分ケ
ル、又國民全體ガ生活ヲスル本自
體ヲ殖サナケレバイカヌ、古久經
濟學說ニ「ウエーリ・バンド・セオ
リー」ト云フモノガアル、日本ノ
現狀ニ於テ、兎モ角モ國ニ物ヲ殖
サナケレバナラヌ、物ノ生産ヲ殖
サナケレバナラヌ、又國ノ物資ヲ
殖サナケレバナラヌ、是ガ正シク
我々ノ目標デアル、總テ國民ハ此
ノ點ニ向ツテヤツテ欲シイ、サウ
スレバ自然皆ニ分ケル分量ガ非常
ニ多クナル、勿論分配ノ問題ハ重
大デス、今マデノ勞働問題ナドノ
趨勢ヲ見マスルト、此ノ半箇年間
ノ勞働問題ハ多クハ物ノ分配ニア
ル、殊ニ物價ノ昂騰ニ賃金ガ伴ハ
ナカツタ、是ハ「インフレーショ
ン」ノ増進其ノ他食糧不足ト云フ
コトデ、已ムヲ得ヌコトデアリマ
スガ、ソレニ向ツテ賃金ノ平均ガ
問題ノ重點デアリマシタ、是ハ已
ムヲ得ヌ、併シナガラドウヤラ物

ト云フヤウナコトニ對シテハ全ク同
意思ヒマス、是ハ主トジテ誤解
デス、ア、云フ問題ニ付テ勞働爭
議ガ根本的ニ起ル程ノ問題ノ内容
ヲ持チマセヌ、實質的ニハ一面
勞働者壓迫モ資本家擁護モソシナ
重要ナ問題デハナイ、勞働者其ノ
他ノ代表ノ民間カラ組立テタ法案
デアリマシテ、決シテアレハ政府
ガ作ツタ案デハナイト云フヤウナ
コトデ、是ハ誤解デアラウガ、併
シナガラ失業問題ヲ前ニ控ヘテ居
ル此ノ「アン・エンブロイメント」
ノ問題ガ非常ニ重大デアル、退職
手當或ハ失業ノ機會ヲ生ムト云フ
コトニ對スル勞働問題ノ見透シハ
持ツテ居リマス、併シナガラ兎モ
角モ賃金ガ遅レタカラ及ブト云フ
問題ハ大體一巡シタ形デアリマシ
テ、今ハ其ノ點ニ於テハ大體ノ均
衡ヲ得タ、勿論是デ生活ハ十分ダ
ト云フノデハナイ、元々日本ニハ
物ガ足ラヌノデス、是ハ此ノ問モ
コトデ、已ムヲ得ヌコトデアリマ
スガ、ソレニ向ツテ賃金ノ平均ガ
問題ノ重點デアリマシタ、是ハ已
ムヲ得ヌ、併シナガラドウヤラ物

ト云フヤウナコトニ對シテハ全ク同
意思ヒマス、是ハ主トジテ誤解
デス、ア、云フ問題ニ付テ勞働爭
議ガ根本的ニ起ル程ノ問題ノ内容
ヲ持チマセヌ、實質的ニハ一面
勞働者壓迫モ資本家擁護モソシナ

○齊藤委員長代理 デハ小池君
○小池(政)委員 時間ノ節約ヲ圖
リマシテ、數項目ヲ前半ト後半ノ
ガ参リマシタノデ、是デ打切りマ
存ジマス
第一ニ、既ニ五月デアリマシタ
カ、「マ」司令部ノ指令ニ基イ
テ、社會救濟事業ハ政府自ラノ機
關ニ依リ直接之ヲ行ヒ、而シテ民
間社會事業ヲ助成シ、或ハ補助金
等ヲ與ヘルコトガ禁止セラレテ居
ルノデアリ、又憲法草案第八十五
條ニ依リ、宗教團體ニ公金ノ支出
ヲ禁止スルト同時ニ、慈善博愛ノ
事業ハ政府ノ強力ナル施策ニ俟ツノ
ミトナリマスガ、斯業ノ前途ニ對
スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデ
ガ故ニ、御意見ノ程ヲ十分ニ體シ
テ、各省トモ相談シ、又一般ノ人
達ノ意見モ聽イテ、ソレ等ノ方針
ヲ確立シテ行クコトガ至當ナコト
デハナイカ、又ソレガ極メテ重要
ナコトデハナイカト思ヒマスノ
デ、所信ノ一端ヲ披瀝致シタ次第
デアリマス

○川野委員

○川野委員 マダ御聽キシタイコトモアリマスガ、與ヘラレタ時間

卷之三

卷之三

リマンテ、政貢司

リマシテ、散観目ヲ前半ト後半ノ

存ジマス

存ジマス

力一マ司令部ノ指令ニ基イ

力一マ司令部ノ指令ニ基イ

關之儀而指心之行也

關中志

卷之三

卷之三

ヲ禁止スルトヨミ、慈善博愛ノ

ヲ禁止スルトヨミ、慈善博愛ノ

會事業助成ノ途ヲ絶ツコトニナル

會事業助成ノ途ヲ絶ツコトニナル

業ハ政府ハ強力ナル施策ニ俟ツノ

業ハ政府ハ強力ナル施策ニ俟ツノ

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

設ハ、所謂適格ナルモノハ政府機關トシテ運營セシメ、依託ノ形式ヲ採ツテ適格性ヲ持タナイ限り、「パス」ザル殘存物トナルガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ承ハリタイナデアリマス

第三、本法ニ依ツテ生活苦ノ人ヲ保護スルコトハ國ノ義務ト責任デアツテ、保護ヲ受ケル者ハ生存ノ權利ナリトシ、其ノ關係ヲ法律的ニ權利義務ノ觀念ニ依ツテ解釋スルコトモ肯サレマスガ、道徳的ニ隣保相助ノ精神、特ニ民主主義ノ精神、國民ノ共生共存共榮ニアルノデアルカラ、此ノ共生共存體制ノ上ニ立脚シタル理念ニ基クモノナルコトヲ強調スルコトヲ適當ト信ジマスガ、政府ノ御所見ハ如何デゴザイマスカ

第四、我國ニ於テ漏救、濫救ノ事例ヲ立法ノ中ニ見出スナラバ、明治七年ニ施行セラレタル恤救規則ガ漏救ノ代表的ノモノニアリマス、恤救規則ハ頗ル制限的緊縮主義的ナモノデ、最モ多ク救助シタト云フ時デ、即チ救護法ノ施行セラレル前デ、人數ニ於テ一萬數千人、金額デ五、六十萬圓ニ過ギナカツタノデアリマスカラ、漏

ノデアリマス、ソレデ漏洩者ノ了解セラレル
カラ飢餓ニ瀕スル者、犯罪ヲ敢テ
スル者、自暴自棄ニ陥ル者、自殺
ノ事例ヲ見ナイ悲シムベキ親子心
シテ、漏洩ノ弊害真ニ恐ルベキ
ノガアルノデアリマス、又「イギ
リス」ノ救貧法ハ世界ノ代表的ナ
モノデ、且ツ又御承知ノ如ク最モ
古ク、今カラ三百四十六年前ニ起
シタノデアリマスガ、懲救ノ方面
デモ亦代表的ノモノデアリマス、
其ノ結果憎民助長ト窮民化ヲ招イ
タノデアリマス、怠ケテ居ツテ毛
救ヒハ得ラレルト云フ憎民助長
ト、貧乏人ニ見テ貰ヒタイト云
窮民化ノ弊害デアリマス、其ノ氣
分ハ即チ國民ノ頗廢ヲ意味スルモノ
ノデ、甚ダ憂慮スベキ事柄デアリ
マス、特ニ我ガ國ノ現状ヲ見ル
時、國民精神ノ弛緩ヲ思フ時、懲
救ノ懸念大ナルモノガアルノデア
リマス、本法ノ運用ヲ誤ランカ、
其ノ影響スルトコロ頗ル甚大デア
リマスノデ、重ネテ當局ノ御決意
ヲ御伺ヒシタノデアリマスガ、現在生
諒承シタノデアリマスガ、現在生

モ、今マデノ家ノ品格ノ上カラト申上ゲレバ御分リト思ヒマスガ、子女ヲ中等以上ノ上級學校ニ進メタイ、又進メネバナラヌガ、學費ガナイト云フ陳情ニ接スルノデアリマスガ、該當スル家庭ハ甚ダモイト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テ政府ハ別ニ適當ナ處置、例ヘバ貸費制ト云フヤウナ方法ヲ御執リニナル意思ガアリマスカ否ヤ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

○河合國務大臣 只今ノ小池君カラノ御質問ニ御答へ致シマスガ、民間社會事業ノ前途ニ對シマシテハ、憲法第八十五條デ補助金ヲ或助ヲシテハナラスト云フコトニマシタ、是ハヤハリ國費ヲ用ヒル場合ニ、社會事業ノ補助等ニ名コトガアツテハ因ル、ソコデドウシテモ是ハ政府ガ責任ヲ以テ監督ヲ藉リテ、ソレヲ濫用スルト云シテ居ル範圍位ニ止メナクテハイカヌノダト云フ趣旨デアリマス、政府ノ行動ヲ憲法ニ於テ制限シテ居ルト云フ風ニ解スベキモノト思ヒマス、隨テ此ノ規定ハ、止メルヤウナ意圖ハ一ツモ持チマセヌ、却テ民間社會事業ト云フ毛ト相並ンデ行カナクテハナラニ性質ノモノデアリマス、事柄ハ、例

ハベ生活保護トカ或ハ失業救濟ト
カ云フヤウナ大キナ面ニ付キマシ
テハ、是ハ政府自ラノ責任ニ於
テ、政府自ラノ手ニ於テヤルコト
ガ適當デアリマス、所謂駄目ヲ詰
メテ行クト云フヤウナ意味ニ於ケ
ル所ノ社會事業ハ、ドウシテモ是
ハ民間デヤツテ費ヒタ、官ノ力
メテ行クト相俟ツテ、盛リ上ル民
意ヲ其ノ中ニ織込ンデ、社會救濟
ノ目的ヲ達シテ行カナケレバナラ
又コトハ言フマデモナイコトデア
リマス、在來ノ民間社會事業ニ對
スル政府ノ政策ハ、熱意ハ持ツテ
居リマシタケレドモ、豫算其ノ他
ノ面ニ於テ不十分ノ點ガアツタ
云フコトヲ私ハ認メテ居ルモノデ
アリマス、今後ハ斯ウ云フ面ニ付
キマシテ、積極的ニ何等カノ方法
ヲ考ヘタイト云フコトヲ、實ハ自
分デ考ヘテ居リマス、御承知ノ通
リ、私共ハマダ就任僅カノコトデ
アリマシテ、其ノ面マデニ手が廻
ラナカツタト云フコトヲ御諒承願
ヒタイト思ヒマス、ソレト日本ノ
斯ウ云フ變革期ニモ際シタモノデ
アリマスカラ、最モ大キナ、最モ
激シイ問題ニ處スル方法ヲ先づ執
ツテ居ル次第アリマス、此ノ議
會ヲ過ギマスレバ、大體一落着キ
落着キマス、サウ云フ時ニ能ク考
ヘマシテ、斯ウ云フ面ニ對スル積
極的方法ヲ執リタイト考ヘテ居ル
次第デアリマス。

律ニ基ク政府ノ義務デアル、憲法及ビ此ノ法
ノ権利デアル、権利義務關係ト云
扶助ト云フ面カラ、斯ウ云フ問題
ヲ考ヘルベキデハナイカト云フヤ
ウナ意味ノ御質問デアリマシタ、
私ハは一ツノ物ノ表ト裏ト考ヘ
テ居リマス、ソレハドウシテモオ
互ヒニ生キテ行カナケレバナラ
ヌ、又國家ニ一人ノ飢民アラシメ
テハナラヌト云フ一ツノ理想ハ、
是ハ言フマデモナク人道主義ニ基
イタモノデアリマス、人道主義ハ
社會生活デアリマス、社會生活ハ
共存共榮デアリマス、其ノ爲ニオ
互ヒノ我儘バカリヤツテハイカ
ヌ、オ互ヒニ権利ヲ主張スルト同
時ニ、ヤハリ自分ノ義務、責任ヲ
自覺シテ行ク、自分ノ權利ヲ主張
スルト同時ニ、他人ノ權利ハ、尊
重シテ行クト云フヤウナ所ニ、社
會相互的ノ基礎ガアリマス、是ハ
共存共榮デアリ、又共生共存デア
ルト云フ風ニ私ハ見テ居リマス、
之ヲ法律的ニ申セバ、是ハ國家ノ
義務デアル、國民ノ権利デモア
ル、之ヲ實質的ニ申セバ、人道主
義的ノ共存共榮ニナル、是ハ物ノ
表ト裏トデアリマス、一ツノモノ
デアルト私ハ考ヘテ居リマス、今
マデ日本國民ニハ、オ互ヒニ相互
扶助的ナ考ヘハ相當發達シテ居リ

ツテ來テ居ル、今日ノ戰後ノ狀能ニ於キマシテモ、色々ノ議論ハアルニシシテモ、兎モ角モ日本人ノオ互ヒニ他ヲ助ケ合ツテ行クト云フ考ヘハ、ヤハリ日本民族ノ特長トシテハ推奨シテ宜イ所デアル、現ニ國ガ此ノヤウナ狀態ニ於テ群序ヲ保ツテ、此ノ苦難ニ拘ラズヤツテ行クト云フコトハ、其ノ爲アアルト私ハ考ヘテ居リマス、法律的ニ申セバ、「デモクラシー」的モノガ法律的ニ認メラレルコトハ薄カツタ、ソレハツキリト法律的ニ認メテ、國家存在ノ理由ト云フモノヲ發揮シナケレバナラヌト云フ點ガ、今日法律トナツテ現ハレテ來タノデアリマス、兩々相俟ツテヤツテ行キタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、其ノ他ノ點ニ付キマシテハ政府委員カラ御答辯ヲ致シマス

シテハ、御承知ノヤウニ文部省所
管ニ於キマスル大日本育英會ト云
フ風ナ制度ガアルノデゴザイマス
ガ、是モ範圍ハ御承知ノヤウニ非
常ニ狹ウゴザイマス、極メテ優秀
ナ者ト云フヤウナモノデナケレバ
該當シナイヤウニナツテ居ルノデ
アリマスガ、是レ以外ニ現在ノ日
本ト致シマシテ、家ノ品格カラ中
等學校以上ニ出スノヲ公費ヲ以テ
出スト云フ風ナコトニハ、中々參
ラナイノデヤナイト云フ風ニ考
ヘテ居リマス、本法ニ於キマシテ
ハ、國氏學校ノ關係ダケハ生活扶
助ノ限度ノ中ニ含メラレテ支出ヲ
スル、ソレ以上ハ御承知ノヤウニ
本法デハ難カシイト云フコトニナ
ツテ居リマス

リ、又友誼的誘導、自助的保護ヲ
ナシ得ル資格アルコトヲ條件トシ
テ人選スペキデアルト思フガ、如
何デアリマスカ、此ノ條件ハ、戰
前「ドイツ」ノ「エルバヘルド」
救貧制度ガ漏救、濫救共ニ矯正ニ
成功シタル原因デアツタコトヲ思
ヒマスレバ、是非徹底ヲ期スベキ
デアルト思フガ、御所見ハ如何デ
アリマスカ

シテ尊重セナケレバナラヌト思フ
ノデアリマス、之ニ付テ貧困ノ家
庭及ビ兒童ノ保護教導ニ付テ、政
府ノ御對策ヲ承リタインデアリマ
ス

最後ニ、我が國再建ノ大計、國
土計畫ニ付テハ、政府ハ審議會ヲ
設置セラレルトノコトデアリマス
ガ、御腹案ガ既ニオアリノコトト
思フガ、アレベ其ノ概要ヲ承リタ
イノデアリマス、將來ノ日本ハ、
平和的、文化的方面ニ於テノミ斷
エザル研鑽ガ行ハレテ行カネバナ
ラヌノデアリマス、隨テ國士
計畫モ、此ノ線ニ沿ツテノミ可能
デアルコトハ申スマデモアリマセ
ヌ、而シテ我ガ國ガ幾ツカノ特色
アル觀光區ニ分レテ、其ノ全般ガ
有機的ニ關聯シテ行ク文化的ナ特
色アル新觀光企業ノ如キハ重要ナ
ル部門トナルコトハ疑ヒノナイコ
トデアルト思フノデアリマス、是
ハ我ガ國將來ノ經濟上、政治上、
文化的、厚生的ニ重要ナル意義ヲ
持ツモノデアルカラ、此ノ際政府
ノ御所見ヲ御伺ヒ致シタインデア
リマス、文化的平和日本建設ノ國
是ニ合致シ、民主主義ノ良キ溫床
トナル斯カル事業ハ、諸外國ノ對
日感情ヲ緩和セシメル良結果トナ
リ、又我ガ國ヲ世界ニ紹介シ、國
ノ信用ヲ伸張スル要因トモナリ、
延イテ外國資本ノ流入、特ニ米國
ノ援助ト投資ガ期待サレルト思フ

○小池(政)委員 只今ノ政府御當局ノ御説明デ了承致シマシタ、私ノ質問ハ之ヲ以テ打切りマス
○齊藤委員長代理 大島君 時間ガアリマセ
ヌノデ極ク簡単ニ要點グケヲ申上
ゲテ御答ヘテ得タイト思ヒマス、
軍閥ノ犠牲トナツタ氣ノ毒ナ遺家
族ノ方々ガ今恩給モ扶助モ停止ト
ナツテ居リマス今日、又我ガ國發
展ノ先覺者トシテ、遠ク海外ニ於
キマシテ粒々辛苦サレテ築キ上ゲ
タ富ヲ、敗戦ニミツテ聯合國ニ没
收サレテ、本富ニ着ノミ着ノ儘デ
歸ウタ方々ニ付キマシテハ、過般
各委員カラ御質問ガアツタヤウデ
アリマスガ、厚生大臣ハ、之ニ對
シマシテ相當時辰ヲ拂ヒ、決シテ
見殺シニハシナイ、斯様ナ御答ヘ
ガアツタヤウニ拜承シタノデケリ
マスガ、私ハ此ノ時此ノ際具體的
ニ何カ救濟ノ方法ヲ御示シガ戴ケ
ナイカ、譬へテ言ヒマスナラバ、
集團的ニ生業施設ヲ設置スルト云
ファウナコト、竝ニ住宅ノ斡旋、
邸宅ノ開放、孤児收容施設ノ整備
トカ、生業資金貸付、緊急生活給
與金貸付ノ簡易化、特ニ私ノ御願
ヒシタイコトハ、生活補助ハ、民
生委員ヲ信賴致シマシテ、委員ニ
於テ急速ニ必要アリト認メタル場
合ハ、即座ニ交付シ得ラレルヤウ
ナ劃期の方途ヲ開イテ戴キタイト
御願ヒスルモノデアリマスガ、此
ノ一點ニ付キマシテ厚生大臣ノ御

所見ヲ御伺ヒシタイトルヒマス
○河合厚生大臣 軍人ノ遺族ノ扶助ニ付キマシテ司令部カラノ命令ニ依リマシテ停止シマシタコトハ甚ダ遺憾ナ次第デアリマス、其ノ後此ノ點ニ付テ數回色々ノ折衝モ重ネマシタガ、是ハ只今ノ所デハ望ミテアリマセバ、其ノ發送

又、戦災者モ一般ノ失業デ困ツカ
オ方モ、廣ク一般ノ生活保護ヲ要
スルオ方ニ出スノデハアリマスル
コトデアリマス、引揚者ノ總數ヲ
先ヅ四人家族ト見マシテ八十萬所
帶、ソレニ全部行キマスレバ三上
三萬世帶デアリマスルケレドモ、
池ヘモ參リマスルカラ其處マデハ
行キマセヌガ、兎モ角モ其ノ申ノ
三割トカ四割トカ云フ所ハ是デ
屬ノ救濟方出來ルゾヂヤナイカ、
併シ是ハ生活資金デハアリマセ
ヌ、先程モ申シマス通リニ、日本
ハドウシテモ増産ト云フ面ニ於
テ、又生産意欲向上ト云フ面ニ於
テ集中シテ行カナケレバナリマセ
ヌカラ、是ハ生業資金デアリマ
ス、何人カノオ方ガ之ニ依ツテ其
同ニデモオヤリニナレバ何トカ出
來ハセヌカ、勿論十分デハアリマ
セヌガ、國力モ考ヘナケレバナラ
スカラ此ノ程度ニ於テ先ヅヤツテ
行ク積リデ居リマス、其ノ他ノ點
ニ付キマシテハ、一般生活保護法
ヲ適用シマシテ色々保護ノ實ヲ與
ゲタイト云フコトヲ考ヘテ居リマ
ス

モ中々多いノデアリマス、又都市へ引揚ガテオイデニナツタ方モ中多イノデアリマス、地方都ト相俟ツテ失業救濟ノ具體的實ニ舉ゲテ行キタイ、其ノ面ニ於テモ引揚者ノ方デ相當救濟ヲサレル方ガ多カラウト思ヒマス、住宅ニ付キマシテハ御同感デアリマスガ、是ハ實ハ戰災復興院ノ所管ニナツテ居リマシテ、私カラハ答辯ヲ差控ヘルコトニ致シマスソレカラ尙ホ生活保護料ノ交付ナドニ付テ、即座ニ之ヲ渡スヤウナ便宜ノ方法ヲ採レト云フ御話アリマシタガ、是ハ御尤モデゴザヤウニ於キマシテハ、色々ノ補助金ノ如キハ非常ニ遲レテ一年モ一年半モ掛ツテ行クヤウナ實態ナドモアリマスガ、此ノコトハ民生委員直接ニ先端ニ觸レマシテ、實際ニ即シテ居ルコトデアリマス、サウニテ實際ニ市町村ガ支拂ラヤツテ行クコトニナリマスカラ、政府ノケル仕事トシマシテハ、最モ敏活ニ行クモノデアリ、又行クコトヲ期待シテ居リマスガ、御注意ノ點モアリマスルカラ、斯ウ云フ點ニ對執ルヤウニ、特ニ注意ヲ用ヒル積リデ居リマス

ナ要項ヲ示ス必要ハナイデセウ
カ、此ノ點ヲ御伺ヒ致シマス
○葛西政府委員 第二條ノ取扱
ハ、實際認定ヲ致シマスルモノ
ハ、第一線機關デアリマス市町村
長ト云フコトニナリマス、ソレカ
ラ之ヲ補助致シマスル民生委員ノ
意見ガ、實際ノ場合ニハ非常ニ有
力ニナルト思ヒマス、併シ國カセ
方ニ依リマスト、非常ニ御心配ノ
ヤウナ點ガアルノデアリマスカ
ラ、取扱等ニ付キマシテハ、其ノ
實例等ヲ擧ゲマシテ、地方其ノ他
ニ能ク示シマシテ聞ヒノナイヤ
ウニシタイト云フ風ニ考ヘテ居ル
次第デゴザイマス

足シテ居ルモノテアリマスルカラ、市町村或ハ其ノ他ノ公益法人或ハ私人デモ、ヤラウト云フモニ對シマシテハ積極的ニ御援助ヲ戴キタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、補助ノ關係デゴザイマスガ、第三十二條ニハ二分ノ一ト云フコトニナツテ居リマスルガ、此ノ補助ノ規定ハ實ハ大變複雜デアルノデゴザイマシテ、市町村ガ施設ヲ設置致シマシタ場合ニハ、國ガ二分ノ一持チ、縣ガ四分ノ一持チ、市町村ガ四分ノ一ト云フコトニ相成リマス、四分ノ一ヲ市町村或ハ私人ガ設置致シマス場合ニモ四分ノ一ヲ設置者ニ負擔シテ戴ク、縣ガ四分ノ一持チ、國ガ二分ノ一補助スルト云フコトニ相成リマス、是ハ設備ノ所有權ガ設置者ニ屬スルヤウニナリマスカラ、保護費ノ方ハ全部公費デ出ルヤウニナリマス、設備ニ付キマシテハ所有權ガ其ノ方ニ歸屬スルコトニナリマスカラ、若干ノ負擔モ乙ムヲ得ナイノデハナイカト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、隨ヒマシテ全額補助ト云フコトハ、只今ノ所ハ考ヘテ居ラナイ次第ニアリマス

○葛西政府委員 只今此處ニ詳シ
イ數字ヲ持ツテ居リマセヌガ、浮
浪兒ト申シマスト、浮浪兒ト云フ
言葉デ分リマスヤウニ、實ハ數ガ
ハツキリ致サナインデゴザイマ
ス、浮浪兒ガ何人居ルカト申シマ
シテモ、名前ガ示シテ居リマスヤ
ウニ、浮浪兒デアルモノデアリマ
スカラ、確實ニ何人居ルカト云フ
コトハ一寸申上ゲニタイト思フノ
デアリマスガ、唯時々浮浪兒ニ一
齊調査ヲ致シテ居リマスノデ、其
ノ調査ニ掛リマシタ者ノ數ハ分ツ
テ居リマス、隨ヒマシテ其ノ數
ハ、一ツ資料トシマシテ最近ノモ
ノヲ御届ケスルコトニ致シタイト
考ヘテ居リマス、尙ホ是ノ保護ノ
状態デゴザイマス、大概五月ノ末
デアツタト記憶致シテ居リマスカ
ガ、全國的ニ調査ヲ致シマシタ所
ガ、浮浪兒ガ約二千五、六百アツ
タト思ヒマス、其ノ半分ヲ保護施
設ニ收容シテ居ルト云フ風ナ報告
ガ參ツテ居リマス、ヤハリ逃出ス
モノデアリマスカラ、是等ハヤハ
リ其ノ施設ガ良ク、何時カモドナ
タカノ御意見ニゴザイマシタヤウ
ニ、親切ニ子供ノ住ミ好イヤウナ
環境ニシテヤルト云フコトガ極メ
テ必要ダト思フノデアリマス、浮
浪兒等デドレダケ死亡シテ居ルカ
ト云フヤウナ統計ハ、マダ私共ノ
方デハ實ハ存ジマセヌノデアリマ

スガ 前ク調ヘマシテ 東京等ト
限定致シマスレバ分ルカト思ヒマ
スカラ、取調ベマシテ是レ亦御屈
ケスルコトニ致シマス

○大島(定)委員 只今ノ御回答を
モマダハツキリシナイヤウデアリ
マスガ、健康状態ニ付キマシテハ
本結核療養所設置ノ問題ハ他ノ委
員ノ方カラ質問ガアツタヤウニ承
ツテ居リマスガ、是ト同時ニ精神
病患者ノ保護收容所ヲ設置スル意
望ヲ申上ゲテ置キタイノデアリマ
ス、要ハ社會平和ノ生活ト致シマス
者ノ効果ガヌニ依ツテ其ノ效果ガ
シテ、當局ハ勿論デアリマスガ、此
第一線ノ其ノ術ニ當リマスノデ、此
意ト誠意如何ニ依ツテ其ノ效果ガ
舉ルモノト私ハ存ジマスノデ、此
ノ點ニ付キマシテ切ニ御當局ノ御
考慮ヲ煩ハシタイト思ヒマスガ、是
マス、時間モ過ギテ居リマスノデ、此
ノ點又機會ガアリマシタラ
質問致シタイト思ヒマスガ、是
打切りタイト思ヒマス

○齊藤委員長代理 ソレデハ本日
ハ之ヲ以テ散會致シマス

午後零時八分散會

○大島(定)委員

昨日松谷サン

得ナイノデハナイカト云フ雲ニ考
ヘテ居ル次第第ゴザイマス、隨ヒ
マシテ全額補助ト云フコトハ、只
今ノ所ハ考ヘテ居ラナイス次第ア
リマス

○大島(定)委員 一昨日松谷サン
カラノ御質問ニ、戦災孤兒ヲ收容
シタ其ノ後ノ死亡率ハ四割アルト
云フヤウナ御話ヲ承ツテ居リマス
ガ、帝都ニ於ケル孤兒ノ數ト收容
箇所竝ニ收容後ニ於ケル狀況ヲ、

○齊藤委員長代
ハ之ヲ以テ散會

理政シマスソレハ木田八分散會

質問致シタイト用
丁切リダイト思

思ヒマスガ、是ニ

足シテ居ルモノニアリマスルガ
ラ、市町村或ハ其ノ他ノ公益法人
或ハ私人デモ、ヤラウト云フモノ
ニ對シマシテハ積極的ニ御援助ヲ
戴キタイト云フ風ニ考ヘテ居リマ
ス、補助ノ關係デゴザイマスガ、
第三十一條ニハ二分ノ一ト云フコ
トニナツテ居リマスルガ、此ノ補
助ノ規定ハ實ハ大變複雜デアルノ
デゴザイマシテ、市町村ガ施設ヲ
設置致シマシタ場合ニハ、國ガ二
分ノ一持チ、縣ガ四分ノ一持チ、
市町村ガ四分ノ一ト云フコトニ相
成リマス、四分ノ一ヲ市町村
或ハ私人ガ設置致シマス場合ニモ
四分ノ一ヲ設置者ニ負擔シテ戴
タ、縣ガ四分ノ一持チ、國ガ二分
ノ一補助スルト云フコトニ相成リ
マス、是ハ設備ノ所有權ガ設置者
ニ屬スルヤウニナリマスカラ、保
護費ノ方ハ全部公費デ出ルヤウニ
アリマス、設備ニ付キマンテハ所

○葛西政府委員 只今此處ニ詳シ
イ數字ヲ持ツテ居リマセヌガ、浮浪兒ト申シマスト、浮浪兒ト云フ
言葉デ分リマスヤウニ、實ハ數方
ハツキリ致サナイノデヨザイマ
ス、浮浪兒ガ何人居ルカト申シマ
シテモ、名前ガ示シテ居リマスヤ
ウニ、浮浪兒デアルモノデアリマ
スカラ、確實ニ何人居ルカト云フ
コトハ一寸申上ゲニタイト思フノ
デアリマスガ、唯時々浮浪兒ノニ
齊調査ヲ致シテ居リマスノデ、其
ノ調査ニ掛リマシタ者ノ數ハ分ツ
テ居リマス、隨ヒマシテ其ノ數
ハ、一ツ資料トシマシテ最近ノモ
ノヲ御届ケスルコトニ致シタイト
考ヘテ居リマス、尙ホ是ノ保護ノ
狀態デゴザイマス、大體五月ノ末
デアツタト記憶致シテ居リマス
が、全國内ニ調査ヲ致シマシタ所

スが前ク調ヘマシテ 東京等ト
限定致シマスレバ分ルカト思ヒマ
スカラ、取調ベマシテ是レ亦御願
ケスルコトニ致シマス

○大島(定)委員 只今ノ御回答モ
モマダハツキリシナイヤウデアリ
マスガ、健康状態ニ付キマシテハ
御調査ノ上御回答ヲ願ヒマス、尙
本結核療養所設置ノ問題ハ他ノ委
員ノ方カラ質問ガアツタヤウニ承
ツテ居リマスガ、是ト同時ニ精神
病患者ノ保護收容所ヲ設置スル希
望ヲ申上ゲテ置キタインデアリマ
ス、要ハ社會平和ノ生活ト致シマス
シテ、當局ハ勿論デアリマスガ、此
ノ點ニ付キマシテ切ニ御當局ノ御
考慮ヲ煩ハシタイト思フノデアリ
マス、時間モ過ギテ居リマスノデ、此
第一線ノ其ノ術ニ當リマス者ノ熱
意ト誠意如何ニ依ツテ其ノ效果ガ
舉ルモノト私ハ存ジマスノデ、此
ノ點ニ付キマシテ切ニ御當局ノ御